



○エムシヤセニエ

○ナ子 シヨクヌモツリ
コトアリ

○ニキセキタダハレイタニ

○ニ主 セキノノ
スバコノ セキノノ
スバコノ セキノノ
スバコノ

○エエヤカ

○ナビシツタ
カ

○ナナナ
ムシケヤカ

○ニエニ
ハテナリ
ハラバリ

小兒諸症目錄

面部形色

一

眼視口訣

二

面觀口訣

三

虎口三關

四

手指脈紋

五

小兒脈法

六

外証口訣

七

初生之藥

八

小兒洗法

九

初生通用

十

急驚風

十一

慢驚風

十二

驚上欄

十三

疳疾

諸論

五疳見分事

疳眼入時茶法

五疳茶法之事

十四

走馬牙疳

十五

瘳疾

十六

感冒

發熱

十七

變蒸

十八

胎熱	十九	傷食	二十
嘔吐	廿一	泄瀉	廿二
痢病	廿三	夜啼	廿四
不乳	廿五	喉痺	廿六
纏喉風	廿七	停耳	廿八
滯頭	廿九	丹毒	三十
疳病	三十一	諸蟲痛	三十二
語遲	三十三	行遲	三十四
解顛	三十五	鶴膝	三十六
泥吃	三十七	脫囊	三十八
脫肛	三十九	赤瘤	四十
脂中出	四十一	龜胸	四十二

龜背	四十三	遺尿	四十四
弄舌	四十五	重舌	四十六
口瘡	四十七	撮口	四十八
疳風撮口	四十九	尾骨痛	五十
腹脹腹痛	五十一	痰熱	五十二
咳嗽	五十三	喘促	五十四
不食	五十五	頭瘡面瘡	五十六
諸瘡	五十七	腫物	五十八
小兒諸病療用藥	五十九		
小兒經驗口傳秘方	六十		

● 小兒科

小兒の病と療治はるゝ古人
の難しとて誠小病と問の
一法はかくこのゆへ小兒を
科と名くゑのゝ脈氣
いまだ定まらずして浮沉極
めは面部の外候虎口の紋外
症の口訣とて小關へす此等
小兒は其の病をあるとあり
こゝに教ふ大いそ末ふるすそ
は小兒ハ虚一安一治一安一
ろく計ひ薬と用也

右のあざと肺ふぞくすろふ
ろきと順と—あうきと逆と
す赤ろきとあうきと—さハ嗽悶
鼻のやまひあうきとさうき
ひさハ心ふぞくすろきありき
あうきと—黒とさうきとすあ
くろきハ驚風腹痛啼と
主と少黄ろきと盗汗髪
燥驚痺とつらきと

鼻ハ脾ふぞくすろきと
あうきと—あうきとさうきとす赤
ハ虚移の黄ろきハ小便閉て血

顔ハ腎ふぞくす色くろき
と順と—黄ろきと逆とすろ
あうきとハ腎と膀胱ふ移りあり
て小便通ぜろきとさうきと

● 虎口三關の圖 四番五



一のうきと風関と不安ふ
紋あきハ病治—安—
二のうきと氣と不安ふ
あうきとハ病大事ことと
養生と

三のうきと命と不安ふ
あうきとハ十人ふ一人を生

一日數のびつとも終ふ

死

紫さる赤けきハ熱

青さる黒さるあれハ冷ありあり

見分て薬とあるよ

若辛の皮厚くして紋とすハ

目面腹の相を見く病とこ

けて茶とさちの魚

ろあをさハ驚やつと

うまこれハ寒移り表あり

こあさハ傷寒又ハ痘疹

紋とさハ病ひ

あさハ乳食の滞りあり

えんあさして血不指甲ふさハ

驚風あり悪症とさハ

えんさるさる墨塗のさるあれ

病とさる

さるむささハあさハさ風氣の

さひさるさひさる風の方と本と

さ茶と用ハ

一のふさあさるハ風とひさ

まけとさるハ

この紋とさるさるさる痰移り

この紋とさるハ風とさる積熱

水とさハ食とさ咳驚病

しこのえんハ肝のえんハいさぐさく
しこのえんハ疳の蟲大腸積積こ
しこのえんハ疳をく吐さぐさく
しこのえんハむーの多さぐさく
しこのえんハ死す
やこのえんハ疳積積聚る
しこのえんハ肝ふんえんえん有
盡このえん三のえんふあれ治す
このえんハのえんハ死す

しこのえんハのえんハ死す
右左のえんハのえんハ死す
し右ふんハのえんハ死す

し右ふんハ傷寒身熱不食汗有
し右ふんハ傷風身熱不食汗有
しこのえんハのえんハ死す

しこのえんハ硬物ふある
しこのえんハ冷物ふある

しこのえんハ冷ふある
しこのえんハ再發の候こ

しこのえんハ頭面の上肚腹のえん
しこのえんハ筋あま毒食物

驚積治す

しこのえんハ常疳疳蛇疳食積

の疳あり治す

凡疳微細さくものえんハ風気の

そのひらき痺れあり風痺の治を薬
を多く後ふ虫積と取そのうち思と

肥を治

——これを良法あり

小兒三歳より一歳ハ脉ありてある

右虎口ニ関の紋理と見ニ病

をより薬とありよ

●小兒の脉法 六

小兒三歳より一歳ハ指の紋と見の外

指一ツとありて寸関尺の三部と

ありまろろてうかふあり一息

六七動と常のふとすを身よ

のふと熱と——これをありか

浮中々で洪ありて風盛ありとす

浮数あり驚あり表裡あり

沉遅あり虚あり裏あり

沉て實ハ積あり

兎の脉和せざる時ハ弦急なり

沉緩ハ食傷あり

促急ハさるあり

浮ハ風とひとるこ浮数ハ風移

沉細ハ冷なり沉遅ハ虚あり

虚濡ハさるあり

緊急ハさるあり

ひとふ細ハ痺方とさるあり

浮数表裡風熱とさるあり

● 沈黙ハ 移り死するところ

● 浮遅ハ 表の冷なり

● 沈遅ハ 眞の冷内けり

● 兎うききそて半歳のあてハ 額の

眉のそ 髪際の間と無名指

中指 食指の三つとそりてか

ろく 握ゆー 児の頭ひざり

● 小あハ 右の手右小あハ 左の

手とそりて 食指と上とそ

三つのゆびとも小指のまを風邪

とあて 三指とそふひかりハ 外

感内傷 致移り吐瀉の病とす

● 是るハ 下冷るニ病ありと云

● 小あハ 三指とそふひかりハ 外

ハ 驚風とそぬるやまひ

ひとはゆひえり 移りまハ 乳食

のそこぬりありと云ハ

● 三歳より以後ハ 大人の脉法

と同一と云ハ

● 外証と見事

七

● 牙とあかすところと云ハ

驚と發するところと云ハ

● により涎沫と云ハ 啼ハ 虫の

いことあるところハ

● ううくと云ハ 睡りてひこと云ハ

ひるハ瘡疹の症とす

吐瀉しつゝとく移りて腫

子とあらすハ虚移り又ひとを

あつさぬハ胃の實移り

移り涎をたぎて血をさく

ハ肺移り

大便あやとろく化さるハ胃

の冷り

吐瀉しつゝとく乳とけさるハ食傷

あり下しとろ

頭とろ眼とひりらるハ肝の

風移り

三焦の積熱あり

清たる涕とろとるハ肺寒と

盗汗ハ五臓の虚移り

腫て丹毒の生さるハ肺熱と

土と食たるハ脾の疳氣と

項こさるとろむハ肝の風と

その云と目数遅さるハ心氣のふ

ろくあり

半長齒とろるハ腎のやと

半長とろるハ腎の

不足なり

髪ひさしくとろるハ腎のおと

ろくあり

と一用乳のまじりたるものなり
胎毒と下を妙方あり
辰砂丸ありた車連湯ありた一方
を用る一ニ方相もて用へる

●産兒と洗事九

小兒小湯とあひする時兒のせ
ありと大事小まじり風邪入と
あり風とひげハ癩疾とあり
五根湯胎どくの氣とをらひ瘡
疥と生ぜす

桃の根 柳の根 梅の根
桑の根 槐の根

つへん一ありふえ一そろく
の不祥の氣さくるあり

●初生通用の方 十番

五香湯 毒氣をらふ入と洗を
そとて此方と用て胎毒とろく
くすすあり

丁香 木香 沉香

乳香 各五 麝香 三カ

石けんをぬふ浸一兒ふと守せ
小五香湯 ろく胎毒とろたす

木香 沉香 乳香
麝香 藿香 連翹

石けん一のますへ

深五香湯

児の口の外に瘡

でき軟癰と生一その外口のま

りさ身小谷とあき瘡生を

るを治すこころ胎毒のあす

こころなり

沉香

木香

乳香

丁子

藿香

升麻

葛根

連翹

各五分

木通

大黃

各五分

右少湯をうりうり用あとい

子のうりうり用い

五香湯

常小児をうりうり

脾胃をうりうり吐逆を止め心火を

癰疽瘡有るなり

木香

沉香

丁子

乳香

麝香

連翹

青皮

甘草

右少湯をうりうり用あとい

五香湯の類児小多く用い

胎毒内小深く瘡腫外小多き

小八用一をうりうり用い

急驚風

十一

急驚風ハ肝木小くす風

邪有餘の証あり清涼瀉氣の

くまうあり肝經血虚を

火と動一風と生一此をい

とあすあり肝血を滋

各々麻黄 肉桂 川芎
葛根 升麻 當歸 獨活
各三錢 本州西者六分

右をいり入るん

鎮驚散 まるまるいびくめ

痰嗽喘咳を治す

南星 防風 蟬退 薄荷

各五分 本州少

右をいり入るん

參朮柴苓湯 まるまるいびくめ

人參 白朮 茯苓 釣藤鈎

陳皮 各五分 柴胡 升麻 各七分

右をいり入るん 用

瀉青丸 肝熱急を治す

ひくめを治す

羌活 大黃 川芎 龍膽

山梔子 當歸 防風 各五分

右をいり入るん 竹葉湯

右を用ひあつてん湯を

用てもよ

急驚風を治す

小兒一切の痰喘

を治す

千金散 小兒一切の痰喘

を治す 慢驚風を治す

各々麻黄 肉桂 川芎
葛根 升麻 當歸 獨活
各々 芍药 各々 各々

右をいり入るん

鎮驚散 まきまきふうびくめ

痰嗽喘咳よりを治す

南星 防風 蟬退 薄荷

各々 芍药 各々

右をいり入るん

參朮柴苓湯 まきまきふを治す

人參 白朮 茯苓 釣藤鈎

陳皮 各々 柴胡 升麻 各々

右をいり入るん 用

瀉青丸 肝熱急を治す

ひくめを治す

羌活 大黃 川芎 龍膽

山梔子 當歸 防風 各々

右をいり入るん 竹葉湯

みそ用のあるひに湯をいり

用てもよ

急驚風をいり入るん 時

ふい敗毒散 天麻 強蚕 地骨皮

と加て用ひてよ

千金散 小兒一切の痰喘

をいり入るん 慢驚風をいり入るん

至といふもいふやうにひらき
て灌ぐせは流さうとふとほし

全蝎 あり 白姜蚕 各五分 牛黄 六分

龍腦香 辰砂 黃連 天麻

各四分 牛膝 南星 木州 各五分

石粉 あり 薄荷 燈心 金銀の

えんじ湯 あり 五七重 あり かきたて

て用 あり 妙方

宣風散 急驚風 びくめ

定 あり するや治 あり

松柳子 あり 陳皮 本革

各五分 黑牽子 罌 半分 半 半分

慢驚風 十二

そ あり 慢驚風 あり 脾土 あり 小属 あり 中

氣不足の候 あり 中 あり 和 あり け あり 中 あり ぞ

神 あり 井 あり 温 あり の 膏 あり あり あり 一 あり 更

ま あり ろ あり 病 あり 後 あり あり あり 吐 あり 瀉 あり の

後 あり あり あり 脾胃 あり ぞ 損 あり ぞ 起 あり あり

あり あり あり あり 証 あり び あり け あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり 身 あり 冷 あり 面 あり 黄 あり あり あり 渴 あり せ

す あり 口 あり 鼻 あり の 中 あり 氣 あり 寒 あり 大 あり 小 あり 便 あり 青 あり 白 あり

腫 あり て 睛 あり ぞ 露 あり 一 あり 上 あり ぞ 視 あり あり あり あり あり

足 あり 冷 あり 筋 あり 拘 あり 牽 あり て あり ろ あり ろ あり あり あり

俗 あり 小 あり 天 あり 吊 あり 風 あり と あり あり あり 候 あり の あり あり あり

急驚風 あり 治 あり あり あり 一 あり 癰 あり あり あり

慢驚風とあるは治しごと

大事の症なり

醒脾散 小兒吐瀉やまずえ

ききふとあり脾胃もくうく

し物と食やうと治を

人參 白朮 茯苓 木香

金蝎 白附子 強蚕 天麻

各等分 甘草 少

右をくうくありせんー用じ

釣藤飲子 吐利つと脾胃

の氣虚ー風と發をりと治す

釣藤 鉤五 蟬殼 天麻 防風

麻黃 強蚕 川芎 各二五分

甘草 あり三分

右をせんー 虚寒ふ附子加

補脾益真湯 小兒うまき落

あり瀝よりく外ハ實ーて裡ハ

虚ー乳とあま 薑のうろあま

まんをくうくとあり目と見え

手足びくめきあるハ變蒸ある

ひ客忤等のやまひを治す

木香 當歸 人參 黃芪

丁香 訶子 陳皮 厚朴

肉豆蔻 革果 茯苓 白朮

肉桂 半夏 附子 各等分

金蝎 各五片 あり二分

右をいりて入せん 附子 丁香 肉豆蔻

湯をいりて附子 丁香 倍を

をいりて人參 白朮を倍を

瀉をいりて丁香 訶子を倍す

吐逆をいりて丁香 陳皮 半夏を倍を

をいりて厚朴 良姜を倍を

腹をいりて厚朴 前胡 枳殼を倍を

咳をいりて附子 肉桂 革菓を倍を

づとをいりて前胡 五味子を加よ

足冷をいりて附子 丁香 厚朴を倍を

深紅湯 白朮 茯苓 陳皮

金蝎 細辛 薄荷 小片

右をいりて入用 乳母あり

のをいりて乳をいりて乳母あり

烏沈湯 もんまをいりて治

風をいりて胃をいりて方なり

天麻 人參 川烏 頭生 金蝎

南星 木香 沈香 中片 小

右をいりて入せん 秘製

麝香丹 急驚風 慢驚風

麝香 人參 酸棗仁 遠志

各五分 乳香 五分

右細末しと蜜あり。こけり。

右經
小丸
金竹泊と衣ふまゝ
ソウ

上白湯之用妙

黃芪湯

黃芪二錢 人參一錢 木州五分

苟菜一錢

右
水
也
ん
一

右ふやう
金箔鎮心丸
心とちぢめ熱を解

驚きと云うだけ 神をやまん

煩燥いざねとくー夜啼よなきとくむ

全蠍せんかく 七箇しちか 天麻てんま 防風ぼうふう 羌活きやうかつ

朱黃

赤茯苓

犀角牛乳

石細末

て、
壺を左に金

二十枚と衣きぬと薄荷はくかとせん

用險一

敬馬廂
くちかき
十三

驚癇おどろけハ五臟ござう不随ふずいて治す

魚一とそ毎臟小一獣有

犬癩ハ反折上竄一犬の叫

聲をりありこまハ肝あり牛癩

ハ月を直視腹滿牛の吐く

二五ハ脾胃ヲ雞ノ瘕ハおどろき

非ぞうらせ^てキぞぐく^てその聲^{こゑ}

雞のさけぶくどしこまハ肺あり

猪癰ハ沫スミぞ吐スきぬるにぞして

猪の聲を呼ぶこと六腎あり
羊癰ハ目と口と鼻と舌と出
羊のさけぶごとくこと心あり
その症時々小あつて又止なり
ある時ハあつた又ハいつて痰
火や動目眩さけしひさつ
りびめさるるす涎沫とく
こと大ふらさき恐るあ因て
神氣守らずこと此証をえ

五色丸 五癰重さるる死

を病後小あつてこといふのも
又死ス五癰とふ治を

雄黄 黒鉄

右煉蜜して丸 金銀薄荷と

さんじ其湯を服用

養心湯 心血さくこと

驚癰 驚悸 怔忡

盗汗とくこと發熱あると治を

黄芩 茯苓 茯神 半夏

當歸 川芎 肉桂 栝子仁

酸棗仁 五味子 人參 各二錢

耳聾 炒四夏

石をいふあつて丸用

清癰湯 ところくの癰と

治を

陳皮 半復 南星 茯苓
 桔梗 枳實 瓜蒌仁 山梔子
 黃芩 木香 辰砂 各
 甘草 方

石をうと入せん又眼を
 時竹瀝姜汁を入辰砂を調

眼を

導痰釣藤湯 癰のやまひ

痰火肝火ふどくをそのを

治す

半復 南星 陳皮 茯苓
 黃連 枳實 強蚕 釣藤
 石をうと入木せん

● 疳疾

十四

そよ小兒のやまひ大略疳あり
 煩なり皆卑く乳をふりて
 いま脾胃の氣全がたり小
 食物を喰ふふりて胃の府
 虚損して虫を生し漸々小
 せきて歩むと口を昼夜に
 ひまを腹にあり髪立
 強くふくんで燥き瘦なりこ
 數肥で食れ内熱なり
 ふバく丹をふりて内

満悶ることをあるに父母愛と
常不肥丹の食物瓜果の生冷
の物を恣に朝に食暮に食て
脾胃をまり積滯をば虫を生
し変とて疳とありなりその
初ハ身移り一躰瘦とどのより
黄あしと腹太青筋を生し
虫のささと生し腹をうりて
と諸疳のえとありなり
腹をうり歯黒くけありと
息をうりこころを耳さとのを
この病とありこの病とあり
疳とありと疳とありと
五疳と名くこ疳内ふある時
目とせ腹をうり瀉し瘦とあり
沫青白さといふか一大便の
よりありひ黄ありひ青くその
より定ありこころ冷疳とありこ
疳の外ふある時鼻の頭下
あくうらんで自鼻とひひり
頭と瘡と生し耳の脇あし二瘡
と生し一瘡と結ぶとて疳と
疳とて煩ありその疳とて母
の舌血を吞みうりてかたんと
ありなりこころを血なりとあり

瘕——瘕と治するふ冷熱肥
瘦と辨して薬と与ふ也——
初病のものは肥熱の瘕と爲す
なり久病のものは瘦冷の瘕
と爲すなり——見令て薬
を用也——冷瘕ふ寒薬を
与ふと水ふを積むと
又初病のものは温薬と与ふと
火ふを積むと——兎の瘕疾
大人の勞証と同——元氣大
虚せざるまふとく治を急——

五藏の氣と攝とあるとず——
て諸証と多し瘕と治するふ
脾と神と先とて兼てハ積
を消——虫と治を急——
んを治するの要法なり脉を
不細ありハ瘕と爲す也——

○五瘕と見分事

身の中白くありふくちびる黒く
身瘦腹大耳鼻ふ瘡生——
頭大くくびるくく水と吞

て瘦るなりこそ悪相なりこそ
小麝香丸と云くや
肝癰、面青くするこの中青
白なるこそけちなり筋不舒く

とこそあるなり
心癰、面頰赤く身移りて
口舌赤く移りあり
脾癰、面身黄くなりと腹
大なりこのんで土とくふなり
こそ脾の藏の虚也

肺癰、面白く咳と吐血鼻
腎癰、身大に瘦るなりて
身小に瘡癰を生——このんで
冷たりと卧すこそ腎虚なり
筋癰、血をぼくそやふなり
骨癰、このんで冷地卧すなり

● 某法の事

肝の藏の癰、面白くする
ちやそ人を見えて顔
ありまゝに散ることもありこそ
小八地黄丸と用てよ

● 地黄丸

地黄

三両

山梔子

三分

山藥

二分

沢瀉

三分

茯苓 三錢 牡丹 二分

右細末して蜜を移し・これを

酒に煮て湯で用ゆ

心痛・氣のうつり・ある・口の中

移り・身を移り・して好なり

・・・・・安神丸をうつてはし

● 安神丸

麥門冬 三錢 白朮 三錢

山茱 三錢 寒水石 三錢

辰砂 三錢 龍腦 三錢

牛乳 少 白茯苓 三錢

右細末して・酒に煮て湯で用ゆ

土のうつり・このうつり・なる

・・・・・藥師散を用ゆ

● 藥師散

陳皮 三錢 青皮 三錢

丁香 二分 木香 二分

右調合して・酒に煮て湯で用ゆ

・・・・・用人參白朮

を加用て・酒に煮て湯で用ゆ

腎痛・口のうつり・唇黒・身

・・・・・瘡・疥・癩・白・多・あ・こ・く・ろ

・・・・・目・を・る・る・て・暖・大・

・・・・・又・大・便・を・る・る・後・に・青

右をくしうろふ入水せん
消瘧退熱湯 瘧をくしうろふ肢

わくろふと治す

山査子 烏茶 燈心草

竹茹 檳榔子 燕菜仁

史君子 木通 黑牽牛

大黃 柴胡 莪朮 枳殼

黃芩 葶藶 各半

右をけん

清肺湯 肺をけん

桑白皮 紫蘇 前胡

黃芩 當歸 天門冬 連翹

防風 赤茯苓 桔梗 生苧

各五十分 其外

右をけん

肝疳湯 肝をけん 頭をけん 目を

けん 白膜 睛をけん 節をけん

體をけん

地黃 神麴 地骨皮 各五

川芎 茯苓 枳殼 黃連

柴胡 各五

右をけん

大蕪荑湯 脾をけん

くの症であつて、すふふ用へし
吏君子と云かりく、肉豆蔻
木香 各五錢 丁子 二分 黃連 一分
と云

右粉にして、・こやしをふか——め
し、のれ湯より用へ

木香散 痢の患ふときく

木香 松柳子 各五錢 身料が

右こやしで用へん、で、りて用

五疳保赤散 五疳ともあふし

黃連 三棱 たん・こ各分

のうをまゝやきふしてむねを更

右りてし粉ふして、こねかきふ
な——辰砂と衣ふけ用妙
但、たん・こを、時、いりこきふ
金・こりて、代茶に合ふ——

疳五香湯 疳・ゲ気・キ出・デき・ケ

とらふふり

木香 黃連 各五錢 人參 一分

黃柏 五錢 藿香 五錢 くら香

乳香 各五錢 其料が

右りて、こやしで用へ

いふけき、このこやしを、ぬの乳に

身くのきくすく

磨積保童圓

えげのり

やせつくとく けふふとくをいふ

我本 （読み）

青皮 （読み）

耳竹 （読み）

二校 （読み）

丁子 （読み）

龍膽 （読み）

木香 （読み）

右粉うへ・これかともたーぬり

陽まの年の敷一目ふにん

五疳消食丸

二かゝ腫れあり

とくー 虫とありー 歯あり

ちくけり えんー ちんひ

まうたん まうせん ぶいせん

アト耳か

石粉うへ・これかともたの

とく陽まの年とく用

西大寺小兒妙薬 かんげのり

とくとく月小兒万病

木香 丁子 七分 川芎

藿香 （読み） 耳竹 （読み） ひん

桔梗子 （読み） 桔梗 （読み） せうのり

白檀 （読み） 沉香 （読み）

石寒さくしとく 細葉とく・これかとも

な一丹を衣るけ用妙に

桑山藥 小兒の疳虫あり

ころくのやういとるすいふ用せ

りろ をぬく方 莢木 をぬく

若参 をぬく 馬陳 をぬく 黃薔 をぬく

石粉やね年の救ゆを月七

五疳保童圓 又疳をより

莢木 青皮 三稜 各二方 干漆

丁子 各二方 胡黃連 二方 木香 をぬく

更君子 をぬく 青黛 をぬく

石粉 をぬく のう をぬく 九 をぬく 年救用

自眼入る時 をぬく の をぬく 治す

川芎 赤茯苓 枳壳 杏仁

黃連 半夏 天麻 地骨皮

各二方 生地黃 熟地黃 各二

方 をぬく

石 をぬく の をぬく 大 をぬく と をぬく 入 をぬく 入 をぬく

神祕保童圓 小兒の五疳を

ま をぬく 疳目 をぬく 入 をぬく 目 をぬく の をぬく 久 をぬく ぬ をぬく 大 をぬく 妙 をぬく 方

あり をぬく 此 をぬく 菜 をぬく あり をぬく すと をぬく とい をぬく じ

大 をぬく 石 をぬく 脂 をぬく 木 をぬく 香 をぬく

沉香 をぬく 莢木 をぬく 黃芩 をぬく

巴豆 をぬく 桃仁 をぬく 白扁豆 をぬく

川 をぬく せ をぬく い をぬく 八 をぬく 月 をぬく の をぬく 二 をぬく 方

栴檀子ニ方内桂日桂心日

赤がひるニ方土龍ニ方干漆ニ方

唯の鳥ニ方たうのさの虫ニ方

りろニ方ニ校ニ方吏君子ニ方

丁子ニ方

右二十一味細末して丸一・二目

こいびく白湯ニ方用妙ニ方

治目丸 疳目ニ方黄ニ方ろニ方ふ

あくろろあこニ方より夕ニ方

目くぬふニ方

大黃ニ方黄芩ニ方黄ニ方連ニ方日

二花膏 疳目入ニ方時ニ方

サホの妙方ニ方

秘ニ方の木のニ方あニ方の

花ニ方母ニ方

石ニ方をニ方粉ニ方をニ方のニ方あニ方をニ方

秘ニ方令ニ方朝ニ方のニ方時ニ方よりニ方まニ方にニ方年

のニ方裏ニ方小ニ方身ニ方へニ方男ニ方左ニ方女ニ方ハニ方右ニ方をニ方

てニ方妙ニ方、

紫元指 疳ニ方をニ方目ニ方の中ニ方小

ふニ方よりニ方鼻ニ方のニ方ひニ方のニ方とニ方くニ方あニ方

ふニ方のでニ方きてニ方目ニ方あニ方よりニ方まニ方よりニ方あニ方

りニ方てニ方見ニ方方ニ方よりニ方あニ方よりニ方

赤石脂 大砂石 巴豆 杏仁

各々要人參分

右二方より一つをえ・これをもと
な一年のうすゆをて用七

●走馬牙疳 十五

走馬牙疳といふ小兒牙齦腐た

ゞせ二唇にあざとまでくさるゝもの

ありこせ大事の二症と云ふべし

●蘆薈消疳飲 たんきたんき

くらたくらくらひくらくらくらを

治すいそさ此方を用べし

蘆薈 銀柴胡 胡蘆連

石膏 薄荷 益母升麻

甘草 竹葉 十枚

右のちん

●清胃升麻湯 たんきあざと

それくらくらくらくらを治す

升麻 川芎 芍薬 半夏

白朮 各五分 石膏 二枚 葛根

葛根 防風 甘草 各五分

白芷 二分

右のちん 又別ニ白朮半夏

と云てあやん 二方と云ふこと

嗽してそさくすへ

●走馬牙疳有葉の事 妙

白礬 うしろ 黄丹 わらわ

京棗 きやうざう

右に麻粉やして歯の根にへ

又方 分生草の事

五倍子と五倍子のあく
いじやうとたに粉やして

外疳疔薬の事 疔氣を

鼻の下より唇まで瘡を生

あく爛るあ

射香 雄黄 升麻 各半

枯凡 くふん

右のまじりて乳汁をいれ

疔瘡小大瘡ちち

癰疾 おんぢ

十六

癰疾ハ小兒乳食調ら

内小積滯り邪氣相搏て此

やまひをさすなり兩の脇ふさ

ふあをさすといふいさ、脾胃

虚せざるふさや治さへ

その脈あらず 沉細あり

淨府湯 ころいん移つさ

あり口をさし小便あく大便く

ころあつひさちちり食を

あきすうのいろきんこやせ
おとろくを治す

柴胡 茯苓 猪苓 三稜

莪朮 山査子 延緩 各五分

黄芩 白朮 半夏 人參

各五分 胡黄連 耳聾 各五分

あきすうのいろきんこやせ

消癰湯 ころいりしつ

ころいりしつあきすうを治す

人參 白朮 茯苓 半夏 柴胡

黄芩 猪苓 澤瀉 麥門冬

山査子 三稜 莪朮 胡黄連

あきすうのいろきんこやせ

柳肝扶脾湯 ころいりしつ

消えず元氣をとり脾胃を

とりとりあきすうあきすう

いぞろしつを治す

黄連 白朮 茯苓 龍膽

白朮子 山査子 各五分 陳皮

青皮 神曲 各五分 人參 各五分

胡黄連 柴胡 耳聾 各五分

あきすうのいろきんこやせ

肥兒丸 ころいりしつ

治しつて積をとり脾胃を

あきすうのいろきんこやせ

元氣をやいふあり

胡黃連 史君子 史參

黃連 神麴 麥芽

山査子 各三錢 白朮 茯苓

各三錢 芦薈 二錢 甘草 三錢

石粉 やい 西米 あま のう あま ねす

枳實丸 痞支 つう とゆ く —

ろく く を消 — 胃 い とつ く す

白朮 甘 枳實 十

石 い れ え 荷葉 えん — い の

け い の い と い の い — 用 い

本 い を い して い れ い と い す い 陳皮

感冒 並 發熱 十七

感冒 い と い 當座風寒 い 感 い

ぐ い — い と い なる い

惺々散 兎風寒 い と い 王

い い — い 移 い と い あり

白朮 茯苓 桔梗 細辛

薄荷 括葉仁 各三錢

石 い — 用 い

香薷散 小兒風 い と い なる い

香薷子 大 紫蘇 大 陳皮 中

甘草 小

甘草 小

石 い と い あり い と い あり

いんぎの根ひきた入せんー用
風をひきとくびきのぬきよるる
あはこー自正川芋を加移りさつ
よく頭とむか細辛石膏を加
さるるさーとくーくハ半夏杏
仁と加のとさるーとくーハ枳
殼と加白果ふくーハ桔梗を加
二候あーハ天南星半夏加を
たーハちやの根あてもさるる
加目多いハ羌活荊芥を加

脱甲散 兎ろり移りーて

頭痛ひきー愈さる治ス

龍膽 各三分 人參 川芎 各二分

茯苓 各二分 甘草 一分

右をくーくあめ入あせんー

清涼飲 小兒大移りてさあす

あつひ内ふ移りありてのとき

くーあつひ^{さうけ}此^{さうけ}迷ありて乳をあ

まろふ乳をのちあめよりー

當飯 芍薬 大黃 各二分

甘草 一分

右をくー用又あつひゆきさう

くーてても用也ー

柴胡湯 風移りよるるさう

くーてあめ入あせんー

柴胡 中大黃大 枳實 小

黃芩 中 芍藥 中 半夏 大 兒也

石をさくくさるめとせん——
えんといふ三貼あるいふ二貼ある
よ移るめうろくありなり

● 變蒸

十八

児變蒸ハ兒の氣血を長ちり
故あり三十二日めとふ一變す
變蒸よりとふ知恵やあるこ
變蒸のむきなりとふ一のい
そん——とくありなり

柴胡湯

變蒸のひひ移り

防風 各五 柴胡 五分 甘草 五分

石をせん——

當飯飲 ちんがとる寒あ
いて熱あるきとものを治す

當飯 二 木香 肉桂

人參 各五分 耳 中

石をさくくさるめとせん——

調氣飲 ちんがとる吐瀉

驚とて乳を嘔す啼て

人參 木香 香附子

陳皮 藿香 各五分 耳 中

石をきくありあへん

●胎熱

十九

小兒胎熱ハ母懷胎の中不熱
毒の物と多く食ふゆへに
産る子身熱あり一面の
ありありまをこ開てあき
ささぐ大小便通せざるこ
釀乳湯 たい初めの兒ふ先
乳母乳とあうまてこの茶
と服してあをち乳をのま
すゆ

生地黄 黄芩 澤瀉 猪苓
茵陳 甘草 各等分

石ありん——乳母のんて兒
ふさす兒ふはその乳をのま
てもあり

●食傷

二十番

脾胃いさ金ひさる乳をのむ
と過多時ハ消——腸胃
こさなふ傷と吐ッ浮ッ
大和散 乳食ふあてり腹
るうとさその上小風をひきたる
あり

紫蘇 陳皮 香附子
羌活 蒼朮 川芎

枳殼 山楂子 神麴

麥芽 各五分 升

石を煮て入るん——

香砂平胃散 乳食ふやぶらる

脾胃をささるいなるふり——大人

小児とし、食傷ふり——

香附子 蒼朮 陳皮 各五分

枳殼 藿香 各五分 縮砂 七分

木香 升 各五分

石を煮て入るん——肉食

小あそられ、山楂子を加 麴ふ

小あそられ、神曲 麥芽を加 生芡

じきりふい干姜 青皮を加 吐瀉

さるしやまづし、茯苓 白朮 半夏

烏梅を加——

消食散 小兒食傷をささる

食をけさず、そのころ黄をこ 白

朮を脾胃をささるふり——

山楂子 神麴 縮砂 麥芽

白朮 陳皮 青皮 各五分

升 各五分

石を煮て入るん——用寒をささる

てふし、そのころハ藿香 吳茱萸を

加 砂りあつてさむハ黄茶を加

上 啓脾丸 乳食傷を消——

又ハていつく〜ツとちと止痢
を治しちものゝとて定元氣
とほ脾胃とていふやうなところ

人參 白朮 茯苓 山茱
蓮肉 各十枚 陳皮 澤瀉
各五枚 甘草 炙

右粉々にて蜜をえな〜用
小兒常小眼〜とてうくの
二扶と治す妙方こ

●嘔吐

二十一

小兒の嘔吐ハ脾胃より胃
寒と〜けて熱ハ嘔逆なり

乳食と嘔逆とを治す

人參 白朮 半夏 乾姜
桑白皮 陳皮 各五枚 甘草 炙

右を〜〜入る〜
定吐飲 乳とあほし食とく
を小諸葉と〜〜入る〜

半夏 干姜 肉桂
石を〜〜入る〜

●定吐紫金丸 乳食と嘔吐を
るあり

丁香 木香 藿香 人參
白朮 半夏 甘草

右粉々にて蜜をえな〜用

をせ九一辰砂とくろもふくけ
さゆち用又ちん——して用

● 泄瀉

二十二

泄瀉ハあゆハ脾胃小湿邪有
故ち又脾胃よりさういふ
参苓白朮散 脾胃よりくつふ
ちうさうやうく食をたます
をらさういふさうと治す

此薬中和して熱せずひてく
用て氣を養ひ神を育——
脾を醒——色を悦よろこばなげ煩正

本州 各二錢 白扁豆 各一錢
蓮肉 縮砂 桔梗 薏苡仁
各三錢

石ころくさくさくさめとん
その湯をく用ふ——

益黄散 脾胃虚寒やを
瀉——くさくさくさ

陳皮 青皮 訶子 各三錢
丁子 各一錢 且仲

石ころん——耳仲とさう木香
砂仁を加用てもふ——瀉をくさくさ
陳皮厚朴を加病ハ當飯腹正
二果殼を加用ふ

錢氏白朮散

小兒吐瀉やま

慢驚風とありあり病後小

津液足す口乾き渴を多す

治す

人參 白朮 茯苓 藿香

木香 葛根 各等分 耳朮あまう

右をちん——小兒さいく瀉り

瀉りて慢驚風とありとよるハ

山茱白扁豆肉豆蔻を加えて

まききやうおのハ細辛天麻

全蝎を加へ

ハナナリ

助胃膏

小兒吐瀉を解

たり腹中鳴虚寒とてひやく

くぶと治す

人參 白朮 茯苓 丁香

木香 破仁 白豆蔻 肉桂

藿香 各等分 陳皮 山茱

耳朮 各等分

右をちん——白湯ちゆで

用 嘔乳おうにゅう 藿香あやぐ又ハ夜啼やうてい

——とらさむふ用て妙

●痢病

二十三

痢病ハ湿熱食滯しつねつじくおり

赤さハ血ちくあり——白さハ気

ふくすなり

清熱化滯湯 痢病を治す

加減してこころを用也

白芍薬 黄連 こころの平け
こころをさす

陳皮 茯苓 枳壳 黄芩

石水分

石をくくを入ん——用す

血のすくくハ黄芩ハ当飯

地榆を加白さハ厚朴枳壳を

加赤白ありくくハ川芎

當飯桃仁紅花滑石干姜

加赤痢ひくくくく虚

よりハ黄芩黄連をくく

いきまこはりのくくく

木香枳壳子を加くく

芍薬枳壳三倍——當飯延

胡索を加黑豆の汁のくく

ありくくくハ白木芍木

防風を加くくくく

てくく血くく虚ハ人參黄蓮

當飯川芎升麻肉豆蔻を加

芍薬湯 痢病の初發小用

て加減をく

芍薬 枳壳子肉桂黄連

當飯 黄芩各言 木香

大黃 芍薬 甘草

右をんし用 濃血うつくしをえり
とこいさきこちのころや
ありふゝか本より一を
大使をえりしとあり通せ
ずハ先大黃の丸茶を用て
のち煎茶をえりしとこの
とありずハ大黃ハのけて
えりしむハ茶をえりて加し
濃血うつくしをえりしとあり腹痛ふくむハ紅花
牡丹桃仁と加し大使をえりしとあり茯苓
麴く麥まと加しとありとこやます
とことの大使をえりしとありとこ

とや用ゆるにうちの中
まとの大使をえりしとあり
の理中湯を用ゆる

理中湯 とうり大とあり
移りさひく時とあり

人參 白朮 干姜 各五分

甘草あやう 半兩

右をんしと入用とありとありす
しとありしとありハ厚朴陳皮
茯苓と加し移りさひとありハ黃芩
黃柏と加しとありしとありハ芍薬
陳皮と加し大使をえりしとありハ茯苓
澤瀉と加し 此茶小兒こども用

ころくと水せきすことあり
ころとふろくく甚妙あり

● 實腸散 痢病久〜〜云

とろく〜とろくさるふ赤白たに
用と止るこ奇妙し

山藥 蓮肉 各二兩

炒黄芩 各

石ころと砂糖を入熱湯ふ
りさたて用魚一後清米湯

ふと口と漱ぎのむさめ〜こ

常ふ泄瀉やよき人ハ常ふ
用〜り 泄瀉ふ用て妙し

小児の夜啼ハ心經虚一熱
と生して啼あり又脾の藏
冷て痛ときハ啼なり

● 釣藤釣散 夜あると治す

釣藤釣 茯神 茯苓

川芎 木香 當歸 各五

日華方

右をぐりありめ入あやん〜

● 六神散 夜啼ふのる静
口の氣ひくありひとろくさる
乳とのま〜と治す

人參 山藥 白朮 茯苓 大
白扁豆 各五

右をえりあつめ入るべし

乳頭散 夜あさ止す

とむを治す

黄蓍 其州 當飯 木香

赤芍薬 各五分

石粉やて乳の頭小塗て與

吮一むへ

犀角散 客忤驚啼て

移つてとまゝと治す

天麻 犀角 麥門冬

釣藤鈎 辰砂 各五分

不乳

二十五

産出て口をのふと清く

す穢汁腹ふ入るゝとと

て乳をのまゝとあり

茯苓丸 小児産て乳を飲

とを治す

赤茯苓 黄連 枳殼 各

右をえりて蜜を丸一乳汁を

のますへ

喉痺 二十六

喉痺ハ喉のち腫塞やう

て血を出せば愈るなり急

症うとく治す

麤危湯

喉痺を治す

大人小兒ともしふよ

桔梗^{きやうきやう} 山豆根^{さんづこん} 牛房子

耳^{みみ} 生^{なま} 各^{おのづか} 荊芥^{きやうかい} 玄参^{げんじん}

防風^{ぼうふう} 各^{おのづか} 升^{しやう} 麻^ま 三分^{さんぶん} 竹葉^{ちくえつ} 炙^あ

石^{いし} 杏仁^{あんぎん} 頻^{しきり} 小用^{せうよう} 包^{ほう}

吹^ふ 菜^{さい} 枯^こ 礬^{はん} 雄^{ゆう} 黄^{わう} 各^{おのづか} 分^{ぶん}

右^{みぎ} 二味^{にみ} 杏仁^{あんぎん} 喉^{のど} 中^{ちゆう} 吹^ふ 入^い 包^{ほう}

又^{また} 方^{はう} 青^{せい} 艾^い の葉^は を 拵^{つぎ} 汁^{じゆう} を

ぬ^ぬ 喉^{のど} 中^{ちゆう} 灌^{かん} ぎ 入^い 包^{ほう}

● 經^{きやう} 喉^{のど} 風^{ふう}

二十七

喉^{のど} 痺^ひ 傷^{きやう} て 血^{ちゆう} を 出^で せ 八^{はち} 愈^い

て 血^{ちゆう} を 出^で せ せ 嚔^{せつ} ず 水^{すい} 食^{じき}

通^{とほ} せ ず 死^し せ んと する 其^{その} の こ

● 二^に 仙^{せん} 散^{さん}

經^{きやう} 喉^{のど} 風^{ふう} 急^{きゆう} 喉^{のど} 痺^ひ

小用^{せうよう} ひ 妙^{めう} 弟^{てい}

膽^{たん} 礬^{はん}

姜^{きやう} 蚕^{さん} 二^に 包^{ほう}

右^{みぎ} 二^に 少^{せう} 許^{きよ} 喉^{のど} 中^{ちゆう} 吹^ふ 入^い 包^{ほう}

經^{きやう} 喉^{のど} 風^{ふう} を 嚔^{せつ} の 中^{ちゆう} ち ぎ ぎ ぐり

死^し せ んと する 其^{その} の 紫^し 苑^{えん} 一^{いち} 根^{こん} を ち ち

喉^{のど} の 中^{ちゆう} 入^い 嚔^{せつ} さ 涎^{ぜん} を 取^と

出^で せ 八^{はち} ち 嚔^{せつ} せ 嚔^{せつ} せ 妙^{めう} ち

其^{その} の ち 馬^ば 牙^が 硝^{しやう} と 少^{せう} 許^{きよ} 津^{しん}

ぬ^ぬ の こ 入^い 入^い 入^い び ぬ ず

● 停耳

うだしのとき 二十八

升陽散火湯

風熱を耳のうしろ

を治す

升麻 葛根 羌活 獨活

芍薬 人参 各二分 柴胡 三分

防風 各一分 甘草 一分

右を煮りて入るん——用へ——

一方 通竹の葉あつて

そこを煮りて入るて耳の中へ

さすへ——

● 滯頤

二十九

滯頤ハ小兒涎を流して頤の間

爛るなりこそ脾胃虚冷の故なり

通心湯 小兒常小涎をかき

と治す又夜啼めを治す

木通 連翹 瞿麥子

山梔子 黄芩 甘草 各一分

右を煮ん——

溫脾丸 小兒脾胃虚冷なり

つゝふりて治す

羊糞 白朮 各二分 木香 青皮

白朮 各二分 丁香 二分

右を煮りて入るの汁をのりふ

ませ九——さゆき用へ——（松葉）

●丹毒

三十番

小兒の丹毒ハあけハ風熱あり
及設こらこらあり

升麻葛根湯 丹毒あら初

面あけ啼むとく治す

升麻 葛根 芍薬 柴胡

黄芩 山梔子 各五 木通 五

甘草 五

石あえん——母子とせふ眼を

犀角消毒飲 丹毒初らさんふ

（狂燥）

（狂燥） 狂燥——（狂燥） 遍身血

又痘疹已ふと熱解せず

いふ出すと快ふとさるあし

用とす

荊芥 防風 黄芩 各五

犀角 甘草 各五 牛房子 五

石あえん——犀角とくあけハ

升麻と芍薬用ゆ

大連翹湯 丹毒その外一切の

諸瘡いしとく疫病用へ——

連翹 瞿麥 滑石 車前子

赤芍药 牛房子 山梔子 木通

當歸 防風 黄芩 柴胡

荊芥 蟬蛻 各五 石膏

燈心草 甘草 各々

右をせん——母子に服す

● 鬼病

三十一

児の鬼病ハその児の母又乳母
を妊しむる乳を喫て煩を鬼
病と云ふなり

● 龍膽湯

児妊め婦の乳を

喫らるるを治す

川原柴胡 龍膽草 黃芩

釣藤鈎皮 白芍藥 茯苓

各五升 大黃 炙 蟻蛭 甘草

あやうを

● 諸蟲痛

三十二

腸胃と市と——物と——

あやうすと云ふなり——飲食

節と——あひあひいぬあるい

飢腸胃と云ふは傷らるる

積と云ふ積を云ふ熱と生——

湿移り相生——と云ふの虫五

行の氣ふりて化生するなり

上半月ハ虫の頭上ニ向治易——

下半月ハ虫の頭下ニ向治易——

● 安虫丸

虫のいふと治す

木香 鶴虱 檳榔子 訶子

無意仁 附子 乾姜

大黃 各五兩 烏梅 中

石ころして蜜を丸一用

化虫丸

虫のいそと治す

馬木香

神麴

各五兩

桂心

白朮

芍薬

各五兩

耳艸 布

百草霜 二兩

石ころして丸一用 虫を化す

四味化虫丸

虫を治す

燕窩仁

黃連

神曲

麥芽

各五兩

石ころして丸一用

醫藥化虫丸

一切の虫を治す

胡粉

白礬

各五兩

石ころして丸用

温中丸

虫を治す

三稜

薤白

桂心

木香

丁香

石ころして丸

一方

虫を治す 石ころして丸

気す白大人小児に

丁子

木香

肉桂

桂心

青皮

茯苓

厚朴

楊梅皮

干姜

良姜

枳椇子

黃芩

南星

各五兩

耳草

カ

石ころして丸一用 妙なり

虫下ー菜

良毒

まぐり

巴豆あしどろ

苦楝皮

蕨木

肉豆蔻

各五分

石せん

——用く虫を下す

虫下菜

國老

中まぐり大 兒たんの皮甲

艾の根中

石振菜しんさい用く虫を下す

けろくハ巴豆をかてあけて用く

児をひやさぬやうあてて用く

征虫散

いりくしの冷虫ひやめ

良香りやうかう番附子ばんぷし丁子ていし

蕨木わいもく陳皮ちんぴ

石いしをかてあけて用く

○疳虫丸

疳虫を去るあけて用く

積柳子

蕪荑仁

雷丸らいわう

胡黃蓮こわうれん

舩藤ふねとう荅た

石いしをかてあけて用く

●語遅

三十三

小兒言語遅ハ神志しんしを全ぜんく

する故あり

葛蒲圓

小兒言語遅を治す

石葛蒲

參川芎じんせん當歸とうき

乳香

硃砂

遠志えんし

麥門冬（心経）

右を煮て蜜を煉少くして

年の元一湯を服用へ

三十四

●行遲

児立て歩むと遲ハ氣血單

だ充す骨髓満すよろしく

行とあてざる之肝腎とをみ

慮するもの肝筋を主る節

ちくしく束とあてずして

行と遲なり

加味地黄丸 小兒行とおそき

を治す

牡丹皮（心） 白茯苓（心） 沢瀉（心）

牛膝（心） 五加皮（心） 鹿茸（心）

を

右細末して蜜を練り少く

を湯を煮て蜜を煉少くして

●解顱

三十五

小兒の解顱とハ頭の縫合さる

とありこゝ母の氣虚熱多

と感し生る兒このうけあり

まゝ腎氣を満さる故なり

腎氣丸 小兒の頭の縫解て

合さるを治す

地黄（心） 山茱（心） 山茱萸（心）

牡丹皮ももぎ 茯苓ふくろう 澤瀉たくしや

右三味みて蜜みつを移うつり少すこて

ゆき用もち也

八物湯 解げ顧こと治しす

當歸とうき 川芎せんきう 芍藥せきやく 白朮はくじく 人參じんじん

茯苓ふくろう 地黃ぢかう 各おのづか半はん升しやう 少すこ

右三味みん 移うつら酒しゆ炒しやうの

蓮れん蓮れんと加くわへ

芍藥せきやくの事

天南星てんなんせい 三味みてこめ酢すあり

移うつりあてめてひ緋ひ綿めん上じやうふ

傳つたへあざるさとこころろみみ貼はへし

鶴膝

三十六

稟賦りやうふ素そよりよりく血けつ氣き充ちゆう

す故ゆゑ不ふ肌み肉にく瘦す骨こつ節せつああるるこ

て鶴つるの脚あしのころろふふああるるなり

こを腎じん虚きょよりよりこを得えこ

加味かみ腎じん氣き丸わ 小兒せうじ肉にくああるる骨こつ

ああるるこ膝ひざ節せつ高たかくくよよののこ

こを治しす

地黃ぢかう 山茱さんしゆ 山茱さんしゆ 山茱さんしゆ

牡丹ぼたん 白茯苓はくふくろう 沃わく浸しんを

鹿茸ろくじやう 川牛膝せんぎふせき 研けんををああるる

右三味みて蜜みつを移うつり少すこて

用もち也

●吃泥

小兒の吃泥とハ泥を吃喰ふあり

こゝに胃の氣熱を故あり

止泥湯

鬼泥土とこのころふ

を治す

軟石膏 黃芩 陳皮 茯苓

白朮 各半分 水煎る

石をせん

●脱囊

キンタマ 三十八

脱囊とハ小兒の陰囊たき下

腫大あり収めざることをいふ

又囊の皮爛れとむむのあ

收囊湯

小兒陰囊腫大

ありとむむを治す

木通 升麻 黃連 當歸

黃芩 各半分

石をん 一用へ

囊たきとむむのハ丹茶

野紫蘇葉 毛をのんの面あやく

右こりて香油をて調く

西の丸 露るころのハ包茶

青荷葉とて玉を

つゝ右の丹茶を身へ

皮解生して愈あり

●脱肛

脱肛ハ 肛門 脱下りてあきま
らざるなり

療治

先陳壁土と湯ふ泡くその
湯を薰そのうち洗へ

甘草五倍子とこあて分て
綿をうづふ押入泡——あき
めておしよへ

又方 鯢頭を焼て性ぞ存

香油とさとのふへ

又方 鯢頭を焼その烟ふ
あて薰ふハくくくくくくくく

參茸湯

脱肛を治す

人參 黃蘗 當歸 芍薬

白朮 生地黃 茯苓 各五

升麻 桔梗 陳皮 各五分

甘草

石をくくくくくくくくくく

○赤瘤 アカキユラ 四十番

ことと移る毒腫理ふやより血気
ふ擽て皮ふぬけ——外赤くく
未のくくく俗ふ赤遊風と云

生地黃 木通 荊芥 芍薬
桃仁 各五分

石をくくく

外芒硝の泡湯を洗ふ

付茶芭蕉油を塗る

白玉散 白堊 寒水石

白堊 白堊 寒水石

右を酢と水とで洗ふ

胸中汁出 四十一

胸中より汁出痛とあり

自發とふせとふて分て

又方黄柏とふて分て

○龜胸 四十二

龜胸ハ肺移り脹満胸膈を

則此症とあり

瀉白散 龜胸とありと治す

桑白皮 地骨皮 各五

甘草 黄芩

右をセ

治胸圓 龜胸と治す

地骨皮 山茱萸 山茱萸

牡丹 茯苓

鹿茸 牛膝 五味子

右をセ

○龜背 四十三

龜背ハ小兒生下時風背

ひき容り骨髓小逐て則ち

龜背とありあり
治背丸 龜背のふりあり
と治す 介西治贈田トロート

地黃 山茱萸 山茱萸
牡丹 茯苓 茯苓

鹿茸 牛膝 五味子

右よりて蜜を移りて用
竹葉龜の尿とその骨節
點にハ貝平ふあり愈なり
龜の尿と取ハ蓮の葉の上
龜を置ハまゝ尿を正し

遺尿 四十四

ありて腎膀胱の氣金か

らさるあり

禁尿圓 遺尿と治す

地黃大 山茱萸中 山茱萸中

牡丹皮小 澤瀉小 茯苓小

破故紙小 益智小 人參小

肉桂小

右よりて蜜を移りて用

○弄舌 四十五

脾小微熱あるありて舌絡を
し時々虚舌してささとうと
なるなり

漏黃散 脾移りて目黄なり

吐人^{そり}あり口唇^{くちん}に瘡^{かさ}を生^はす
眼^{がん}小^{せう}針^{しん}を生^はす弄舌^{ろうじつ}と治^ち
藿香^{くわきやう}山梔子^{さんし}石膏^{せうこう}甘草^{かんさ}

防風^{ぼうふう} 各^{かく}五分^{ごふん}蜜酒^{みつしう}をそ^そぐ

石^{いし}を^をし^して^ても^もこ^こめ^めて^ても^も用^{もち}へ^へ

○重舌^{じゆうぜつ}木舌^{もくぜつ} 四十六

小兒^{せうに}の重舌^{じゆうぜつ}木舌^{もくぜつ}ハ舌下^{ぜつが}小^{せう}又^{また}
舌^{ぜつ}のや^やり^りの^のと^と生^はむ^むる^るなり

療治^{りょうち}

三稜^{さんれい}針^{しん}と^とら^らて^て舌^{ぜつ}の^の下^かの^の
紫^{むらさき}脉^{みやく}と^と刺^さて^て惡^{あく}血^{けつ}と^と
出^でせ^せハ即^{すなはち}愈^よなり

調^{てう}舌^{ぜつ}の上^{のうへ}小^{せう}舌^{ぜつ}ハ^ハ

又^{また}方^{はう} 木舌^{もくぜつ}口^{くち}小^{せう}塞^{さい}り^りて^て舌^{ぜつ}で^で
死^しせん^{せん}と^となる^{なる}もの^{もの}ハ

紫^{むらさき}雪^{せつ}ニ^ニ交^{かう} 竹瀝^{ちやくれき}半^{はん}合^{がふ}

右^{みぎ}こ^こめ^めて^て和^わ一^{いつ}勻^{うん} 頻^{しきん}に^に口^{くち}を^を
即^{すなはち}愈^よ

○口^{くち}瘡^{かさ}並^な咽^{おのの}喉^{のど} 四十七

小兒^{せうに}の口^{くち}瘡^{かさ}赤^{あか}白^{しろ}あり^{あり}赤^{あか}さ^さハ
心^{こころ}ふ^ふぞ^ぞく^くして^{して}大^{おほ}き^きさ^さむ^むもの^{もの}あり
舌^{ぜつ}小^{せう}白^{しろ}さ^さの^のま^まさ^さま^まあり^{あり}生^はす
兩^{りやう}腮^{さい}ま^まと^とあり^{あり}さ^さの^の出^でと^と鵝^が
口^{くち}瘡^{かさ}と^とあり^{あり}鵝^がの^の口^{くち}小^{せう}似^にる^る故^{ゆゑ}
和^わ口^{くち}散^{さん} 口^{くち}を^を治^ちす

白梅びやくばいや 棗そうや 鉛母えんぼ飛ひ

命いのち白びやく飛ひ 龍腦りゆうのう 少せう 妙めう

右みぎより左ひだりのものをすへー 妙めうこ

瀉心湯しゃしんとう 口瘡くそうを治す

黃連わうれん 一味いちいよりを蜜水みつみづに

とすこのものをすへー

甘草かんさう 黃柏わうはく 細辛さいしん 一味いちいよりを

すへー

又方またほう 口瘡くそうを生はへとすむハ

天南星てんなんせいと粉こなを酢すうをそのど

男おとこハ左ひだり女めづハ右みぎの足あしの心こころに貼はて

小兒せうにの鰓がらに瘡かさを貼はてしひらけり

指さし小兒せうにの井い花水けつすい藥やく 口くちを拭ぬぐひ

洋やう一いつ濃煮のうしゆたる西さい木もく水すい汁じつとす

綿わたふむく 口くちのうらやの

こいれを煖ぬる過かの黃丹わうたんを搗うハ

とあつち愈なをく

又方またほう 鵝が口くち瘡そうを治す

地雞ぢけいと用もちく水みづを搗う瘡かさに塗ぬハ

即すなはちち愈なをく。地雞ぢけいハ則すなはちち扁虫へんちゆう

人家にやうかの磚石てんせきの下したに多く有あ之

口舌咽候くちせつえんこうの諸瘡しよそう經きやう喉こう風急ふうきふ

喉痺こうびとすむ 口くちのうらやを

と大妙方だいめうほうに止痛治咽散しつうちえんさん

白檀びやくだん

川芎せんきゆう 明礬めいらん 日ひ

人參 丁子 乳香 細辛

各二錢五分

石粉少々を喉に塗り置き、口舌の瘡にハ
筒を吹入、口舌の瘡にハ
少々擦り、口舌の瘡にハ
茶を煮、あつて飲む。もし、
如聖湯 咽喉口舌諸病を治
す。とくちをいふと、むくも風
とくちをいふと、むくも風

桔梗 耳聾 荊芥 防風

連翹 各五分

上氣せ、陳皮加

ハ紫苑加、ハ枳殼加

○撮口

四十八

小兒撮口とて、口つくと舌はくると
乳をのます上腮、小粟粒のよう
に、口の出で、啼叫、身冷、
大事の証あり。その粟粒のよう
に、口の瘡を布で指あて、
生肌草をこくせ。中
て、飲、小瘡の涎を吐て生
蘇、口の瘡を乳でのます。七
日、口の瘡は死す。

○暗風撮口

四十九

小兒暗風撮口ハ、暗を断く風、子傷

あつひ尿胞中ふ在ふありて遂に
膈風とありその証あり種ありて面
あり啼聲出す登りて撮口風と
ふ

赤脚金頭蜈蚣 一条 瞿麥 五分

蝎稍 四箇 僵蚕 七箇

右より鵝の毛の管ありてせり
鼻中ふ吹入噴嚏呼声せし治へ
後薄荷とせんその湯あり右の
茶と調く典ふ也

尾骨痛

五十番

小兒の尾骨とむふ瘰癧ありて

いともあり見分て茶とあふ

加味二陳湯

瘰癧ありて尾の

あつひの骨とむふものを治す

陳皮 中

半夏 大

茯苓 中

知母 中

黃柏 中

澤瀉 中

前胡 小

木香 小

甘草 小

石 中

痛止ずハ乳香没薬加へ

加味四物湯

陰虛ありて

尾骨とむふを治す

當歸 大

地黃 大

川芎 中

芍薬 中

黃柏 小

知母 中

肉桂 小

石あせん——
とく止まりあハ乳香没薬加

○腹脹 腹痛 五十一

一方腹脹を治す

蘿蔔子 紫蘇梗 乾葛

陳皮 芍薬 甘草 少

石あせん—— 食少くハ白朮加

腹痛ハ多くハこそ飲食の

傷所あり

一方 飲食滞りてをらむを

治す

白朮 陳皮 青皮 山楂子

石あせん—— 寒あらハ藿香

吳茱萸加熱あらハ黄芩加

一方 小兒をらむを治す

甘草 乾姜 伏龍肝

人參 茯苓 百草霜

白朮

石あせん—— 寒あらハ藿香

名——陳皮をせん—— その湯デ

用也—— 虫よりてをらむ

そのハ虫薬をせん——

○上痰熱 五十二

小兒痰移りさくふややく

胃蒸とありあれたの方

陳皮^中 羊隻^中 茯苓^小 升麻^中
葛根^中 芍藥^中 人參^小 五味子^中

右を^ろう^ろう^ろ入^れん

五十三

○咳嗽

橘蘇散

小兒の咳嗽ハ^ここ^こと

そ^ろろ^ろ魚

陳皮 桑白皮 杏仁 白朮
五味子 羊隻 貝母 柴胡
各^各分^分 甘草^中

右を^ろう^ろと入^れん——風と

ひき^ひせ^せく^くふ^ふや^やと^とり^り右^右候^候と

こ^ころ^ろハ^ハ梧^梧棟^棟耳^耳竹^竹と加^加へ^へ痰^痰多^多ハ

指^指葉^葉根^根麥^麥門^門冬^冬と加^加羊^羊隻^隻と

こ^こむ^むハ^ハ香^香附^附子^子升^升麻^麻と加^加汗^汗出^出ハ

肉^肉桂^桂芍^芍藥^藥と加^加久^久く^く嗽^嗽ハ^ハ杏^杏仁^仁桑

白^白皮^皮と去^去り^り款^款冬^冬花^花と加^加久^久く^くせ^せき^きて

聲^聲と^とハ^ハ梧^梧葉^葉根^根麥^麥門^門冬^冬と加^加

寧^寧嗽^嗽散^散 そ^ろろ^ろの^の咳^咳嗽^嗽小^小通^通

——て^てこ^ここ^こと^とと^と用^用へ^へ——勞^勞嗽^嗽ニ

右^右と^とこ^こら^らり^り

半^半隻^隻ス^ス五^五味^味子^子。茯^茯苓^苓。紫^紫蘇^蘇。

桑^桑白^白皮^皮。陳^陳皮^皮。枳^枳殼^殼。梧^梧棟^棟。

阿^阿膠^膠。罌^罌粟^粟殼^殼。耳^耳竹^竹。烏^烏梅^梅。

右^右を^ろう^ろと^とこ^こら^らり^り魚

橘^橘耳^耳散^散

二^二候^候せ^せき^きニ^ニ極^極て^てり

耳草

白濁之用如

小兒ひきさき

氣喘をく血を吐く

卷之五

天花粉

蜜水ミツスイ 調しらくあふふし

五十四

夜臺よるひ候のぞありて

たの方を用す

青皮 各五斤

५१
७

喘嗽を治す

參茸

時とて、さきぞに、入て

大自湯を調くのみ

方前、あり

五十五

ハタの方

75

く脾胃とく

二五
 二六
 二七
 二八
 二九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

月と神の世とをいふ

天

藁香

右のやん

○頭瘡 並 面瘡 五十六

小兒の癩頭ハ左の方を身じ

頭のきのあるところをさし二遍

松樹厚皮 黄丹 火飛 白礬 ふくせん

黄連 を 大黃 を 輕粉

を

右の味を油にのこす

あてめをせよ

小兒二歳より頭瘡を生

瘡の頭平ふ勿はてその母

孕時多く辛熱の物を食す故

すす瘡端をこすりぬぐもの

こ左の方で用へ

人參 連翹 黃連 甘草

陳皮 川芎 芍薬 木通

各五ト 竹瀝を入

右のやん——用數目にて右

頭瘡にこめさハ醋を以て

洗ふのあとに百草霜大 膩粉

右の味を油にのこす

又方 五倍子の粉を醋に抄り

を

又方 大黃を粉に醋を抄り

へ

又方 山飯来とくせん——ま
くふりしに愈とく妙

小兒の月蝕瘡とて耳の後ろ
小生むる瘡は月の初め小生—
て月中ふさふさしとせんくふ
悴て月の終ふ愈又月のを
しめより生ずかののく月
と盛衰と同一くしと愈
ざる瘡あり黄連とくふと
せ—

小兒の水瘡とて口の邊又ハ
面生—とくく水と

患て患て瘡とて葉

豈粉 黄蘗粉

あぐべのくふき 脛粉

石四味おふに合ふとくく
のあふふれなへ—瘡あり
汁たりはとくべの汁あり移り
てなへ—大妙薬と

又方 倍水とくふ木あり
その木の葉あり皮ありとも
くふきありて髪油あり移
りなへ—

頭の瘡濃魚出髪の中へ流
ててむハ山飯来とせん—

一廻りのむし

あらぐがハ梅干の蜜をいへり
松やあ合ふら酹をいへり

○小兒諸瘡

五十七

小兒諸瘡のこころをいへり
生いてこころをいへり

雪の下 金金草といふきこ

ておしりい

石二味あふりていへり

濃汁出ハ百草霜をかく

ていへり汁をいへり

又方小兒よりぐの瘡に芥菜

小豆粉大

丹州小千栗中

あきこの木の皮

いへりあきこの皮

石二味あふりていへり

そこののちとけりてしる

又方^{うらぐさ}五葉小竹葉

五味子 田子の^{くらやき}

本^{せうせう}竹^{ほしな} 石^{くらやき} 葛^{くらやき}

三^{くらやき} 三^{くらやき} 三^{くらやき}

石^{くらやき} 竹^{くらやき} 竹^{くらやき}

但^{くらやき}その兒の父小楊梅瘡有^{あり}

て子^{くらやき}出^{くらやき}ハ山飯来とせん茶

ふ^{くらやき}し内茶の^{くらやき}すへ

又方 小兒の瘡^{くらやき}よりすふ

り

いぬがくき^{くらやき}くらやき

の^{くらやき}すへ^{くらやき}いぬがくき

小兒^{くらやき}瘡^{くらやき}の毒^{くらやき}断^{くらやき}ハ青葉^{あやき}の類^{たか}

酒^{くらやき}川^{くらやき}実^{くらやき}鮠^{くらやき}魚^{くらやき}た^{くらやき}ふ

こ^{くらやき}ん^{くらやき}芋^{くらやき}生^{くらやき}ら^{くらやき}び

小兒^{くらやき}の瘡^{くらやき}ハ胡粉^{くらやき}をつ^{くらやき}て

と^{くらやき}す^{くらやき}て^{くらやき}り

○腫物

五十八

いんまものり 竹葉

黄蘗粉

えんろ

茶

小豆粉

あつきのい
ぶきし赤きと用也

あん—のくさき、ひやくさき

石の沸か合ふて腫る

ところ、梅すえしりやす

又方 竹葉

たけり—やれやそ

丹礬

黄柏

茶

えんろ

石こりて

お合合ありて竹口傳の法に

てす種の家

てんえんせう

えんろ

花巻

白木 糸の粉をわす

石ころを...こきりふね

葛粉を...ふけふき

穀物をせん...粒入てん

しそのむへ...毒なり

海草の類も

をすね 日茶

田舎をもうすへ

日 分茶

ろくもの...と

をくの汁を移すへ

腫根の妙茶

入...油をよく移す

ス...紙をむす

を...濃を吸うて

めり

を...のり茶

萬連 田舎

蕎麥粉

石...粉をすく

細...をすく

萬腫物

天南星を粉す

石...をすく

痛止

又方 〆とと止るハ

砂糖 葱 白根

右を分金にきだらうーとむ
而て一物を一つもお痛
あらぬはとくくする
てとと止るハ

万腫物ちりー葉

いぬさんせき青き時とく

正りたうー身魚ー

又方 ちりー葉

ひふのちりー

こりて 齧るるときをわ



○小兒療用妙集 五十九

一 小兒疳積 五倍子を生きて煮き

かき粉やてちひくま血やあ

ゝこゝろへ愈ふ

一 血とあは 乳香 牡蠣 紫根

鶏の玉子とあさう 白蜜とすり

入りこまげ粉やて右に味こりて

五分合す

一 金針と身小あまこにたろは

象牙の粉と水あてとさくすま

そのまゝぬる

一 小兒の耳の中へ虫の入たりあは

蕪とていさけと取醋あまて

さす——のち虫づるこ

一耳たしハ紅とくことさす——

一古小物のてきなるハ青黛黄

薬と粉りてとむところ——

一小兒錢とあまうてのこ咽喉小

つありあつた吞込なる炭火

とくことさす粉りてとむ酒と

飲ま——常の炭火——火

お——粉りて——

一錢とのこことなるハ冬葵子の

根とせん——てのちせし——

一小兒の身のちちハ生薑と

一たむハめとくこととめとく

く干粉りてとく入一目こ

度とせし——

一小兒高きところより飛あつた

落骨たひハ石灰楊梅皮

粉りて組屋のうちと粉りて

てす——

一曰骨たひハ小麥の粉、鶏の

五子とあまてす——

一咽喉小魚の骨の立たるハ鳳仙花

の實と粉りてとくことむ——

一小兒ハ赤土と粉りて舌と漆

とく則小舌とくこと愈こ

一日のうすの茶袋角粉をく
この油をいれす

一 兎手足ふくのちなるふゆ
の實并州者ふく
飲を初るを一夜ふくぬき

痛止

一 鼻血なる山梔子くろやき
みく粉をく用で鼻の中

吹入

一 疔のうすのさびをく
水をとく火をあてめし付

一 小兒の髪の内ふくく瘡をく

一 湯をくあらひをく

瘡の瘡を櫛をく丁子

肉桂栴棉子を粉をくこのあ

みを初るを

一 瘡の茶いすく大ふくこ大

うすく 二せう中 二を粉を

してあを湯をくたをく洗て

衣又その布をくく百湯湯

ふ振出—あらひをく

一 耳く水の入るハ魚の目と黒
焼をくふく入て

一 生肉と喰毒あたらハ土と二天堀

この土を煮てせんー上の清なる

水とのますーく毒と解

小のこのとこ
ささぢの毒あたらゝ櫻のこ

とひりやしてふくさるゝ

用ー實あゝ木の皮とせ

んー用ー魚の毒あたら

たふより

くにと喰毒あたらゝ紫蘇と

せんー用又くそ丸と煎用

ささぢハ櫻の葉と醋あ

せんーくふ分てあ

小兒ありハ貝母と粉りて蜜

小兒熱く聲うきハ黄芩

麥門冬ニ味粉りて丸ー用ー

冷て聲出ずハひりく桔梗

丹革ニ味童便あせんー用

声出すおとあゝハ蟬のぬけ

りと末あて水と用ー

小兒眉毛按だゝハ半夏とま

てぬきハ生るあり

小兒口に喰ハ白礬とあつさ

陽とき、両の足をうく洗て

りー立ぬ、口の平ああり

小兒頭瘡耳に喰ハ竹の葉と

くろやきりて猪の膽と水と

とき移るまをそふす

一 兒夜鳴に黒けんしと粉

りて水を臍の上へ

一本に喰毒あらにあら

てその汁をのます

一 魚の類の毒解ハ大豆と煮

てその汁をのます

一 雞子の毒あらに醋とが

のます

一 金銀銅鐵の類とあやまつて

吞たりハ砂仁とくせん

のます

其料とあやみつて綿を

こきとあやみつてその津をのます

之ハ久くくても瘰癧とくくても

出らる

一 小兒白口瘡ハ五倍子青黛粉

りて酒を煮懐ふ

の瘡ハ咽喉のすくふき入る

津ありて吐出

一 重舌ハ五靈脂と醋をせ

るそりくく口をくけ立に愈

一 舌の上より血出ハ香薷の

せん汁をのます

一 舌の上より血出くく血のづる

ハ舌舐とく 槐花 あんきのう

ソリ粉やそ舌の上より 舐め

一 小兒 蜘蛛 こども ふりまきたる あ 貝母 かいも を

こふく 酒 さけ をのます ま せ い の

瘡 かさ の は あり 水 みづ をく 毒 どく をとる

一 狗 いぬ の 唾 つば やりたる あ 生葛 なまがせ 根

と ま け せ た の を ま せ そ の 狗 いぬ

の く い つ たり 疔 しやう ふ 葛 がせ 粉 こな を ま せ

一 猫 ねこ の 咬 くは たる あ 薄荷 はうこう 汁 じゅう 塗 ぬ せ

一 班 はん 蜘蛛 しよ ふ 咬 くは たる あ 藍 あい の 汁 じゅう

と あ り の ま せ そ の 咬 くは と あ り ふ

麝香 しゃかう を ま せ そ の あ り あ の 汁 じゅう

一 水 みづ 蛭 しよ を ま せ そ の あ り あ の 汁 じゅう

の ま せ そ の あ り あ の 汁 じゅう

一 狗 いぬ 屎 し 猫 ねこ の 咬 くは たる あ の あ の 汁 じゅう

汁 じゅう ま せ そ の あ り あ の 汁 じゅう

一 ち ち だ ち あ り あ の 汁 じゅう

と あ り あ の 汁 じゅう

一 紙 し 蓋 がい を ま せ

一 狗 いぬ の 咬 くは たる あ 葱 しよん を ま せ

又 また 牛 うし 糞 ふん を ま せ あ 又 また 杏仁 あんぎ を ま せ

又 また 一 い 又 また 草 くさ 箱 はこ を ま せ あ 油 あぶら

一 顛 てん 犬 けん の あ り あ の 根 こん を ま せ

と あ り あ の 汁 じゅう

一 咬 くは たる あ の 汁 じゅう

三五壯々^{あつ}——又丹^{あつ}を粉
あつ^{あつ}の^{あつ}上^{あつ}——
一鼠^{ねずみ}の^{あつ}に^{あつ}る^{あつ}香^{あつ}を^{あつ}津^{あつ}せ
と^{あつ}——
一馬^{うま}の^{あつ}に^{あつ}る^{あつ}栗^{あつ}を^{あつ}と^{あつ}め^{あつ}——
又^{あつ}き^{あつ}て^{あつ}る^{あつ}あ^{あつ}を^{あつ}め^{あつ}
一^{あつ}の^{あつ}に^{あつ}る^{あつ}亀^{あつ}板^{あつ}や^{あつ}粘^{あつ}り^{あつ}
油^{あつ}と^{あつ}き^{あつ}——

ヨハ^ウイ^サワ^リ薬秘傳法ニ

山^サ歸^キ朱^{ライ} 四拾目

木^モ通^ツ 八月

木^モ通^ツ 八月

薏^{ヨク}苡^イ仁^ニ 八月

金^{キン}銀^{ギン}花^ハ 八月

大^{ダイ}黄^{ワウ} 八月

車^カ草^サ 三月

土^ツ骨^コ皮^ヒ 四拾目

右^ミ拾^シ一^ト貼^ニ 七日用

ロ^シダ^テ

俗^シ七^シ日^カ十^カ日^カメ^シバ^カリ^ニテ

シ^シヲ^サイ^ニテ^テヨ^モツ^ヲ

ク^ハツ

○小兒經驗傳集

六十番

奇應丸 小兒の万病に用
て奇妙に應ずるを以て奇應
丸と名く大人にも用へ

人參 沉香 麝香

熊膽 金薄 辛散

石細末 金盤の上にて

金薄を衣す

氣をむく腹のさへ 食傷

多くらん くらんをり

秘びく 痲疹ハ初中後た

用て妙に毒け 其の外方

病小用い大妙方あり
救童丸 小兒の五疳の病と知
ハ先こせと用へ一ハ消一ハ
補ハ妙方あり

人參 丁子 龍膽 木香
各五分 肉豆蔻 二分

石細末一と蜜煮て・こねて
丸一ニ粒マミク用へ

⑤秘傳保童丸 小兒の疳氣ハ

多用へ一諸疳を治一虫を
治一脾胃を補ハ平和の方こ

丁子 黃芩 白朮 肉桂 木香 白朮
人參 各五分 甘草 二分

石こりて・こせと用へ
包一妙薬こ小兒の百病
牛黄丸 小兒の諸の疳を治
奇妙の方こ

人參 茯苓 山茱 各五分 丁子
木香 各五分 薑 香附子 各五分
牛黄 各五分 甘草 二分

石こりて丸一用ニ歳三歳の
小兒ハ・こせと用へ九四五歳の小兒
ハ・こせと用へ一歳の數用
諸疳を治丸 小兒の疳を治

虫のいこ小兒のころらひハミカ
用へー一ふり腹病のハ用へ
す腹の病ハミカ用へー一ミカ
家傳の秘方

人參 二分 木香 二分 莪朮 二分
香附子 少 丁子 二分 黃柏 少 山茱 二分
檳榔子 少 耳州 少 縮砂 少
肉豆蔻 二分 牛黃 少

石ころりて・ころりてをー小兒
の大小をころりあひ一粒あひ
ころり合て丸數をふへー

瀉黃散 小兒脾熱し目黃
ころり合て丸數をふへー

主一眼小偷針とまを治す

藿香 山梔子 石膏 耳州

防風 蜜酒 各二分

石ころりて白湯をききたる用

銀白散 小兒の百病を治す

升麻 知母 耳州 扁豆 二分

山茱 人參 白朮 茯苓

各二分

石ころりて用ききたる用
薄荷 葱をせんー用 身後を
面あくるきびくつバ金銀を
うきせんー用 おどろきびくめき
つ下つはるバ丁香をせんー用

疳^{えん}を^けら^らなり^{なり} 氣^き急^{きふ}なり^{なり} 百^{ひやく}合^{ごう}と
 せん^{せん} 一^{いち}用^{よう}食^{じき}を^を食^くて^て 肌^は肉^{にく}長^{なが}す^す
 麥^{むく}芽^げを^を煮^にて^て 用^{よう} 病^{びやう}後^ごニ^ニカ^かる^る
 飲^{いん}食^{じき}を^を煮^にて^て 用^{よう} 病^{びやう}後^ごニ^ニカ^かる^る
 一^{いち}用^{よう} 石^{いし}の^のこ^ころ^ろの^のと^と 病^{びやう}証^{しやう}
 一^{いち}用^{よう} 一^{いち}石^{いし}の^のこ^ころ^ろの^のと^と 病^{びやう}証^{しやう}

[illegible]

右の素山茶ハ栗山法印より
長曾加部へ傳へるの法を寫す
秘をへく

苦棟 良香 檉しん 檉しん

三才圖會
卷之五
船
船

石を煮てを用ゐる虫の毒と
治し疳虫と瘰癧す妙也

史君子丸
小兒藏府虛弱

[illegible]

お食をまゐる。用てより

常用之ハ虫を安一胃を補
ふの疳を消一肌を肥す妙
方なり

史君子 陳皮 各五錢 厚朴

木州 訶子 各五錢

右をみりて丸一 湯で用

朱砂安神丸 小兒常ニおどろき
物と小おそれるくハミヤを
用也一

當歸 木州 各五錢 生地黃

二五錢 黃連 各五錢 朱砂 五錢

人參 白朮 茯神 酸棗仁

各五錢

右をみりて蜜を丸一 用也



